令和５年度「特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の推進事業」

第３回　運営指導会議　報告資料

子どもの未来を創造性豊かにする広域活動

八　王　子　市　教　育　委　員　会
生涯学習スポーツ部　生涯学習政策課
学　校　教　育　部　教育指導課

本日の報告事項

１　令和５年度（2023年度）の取組の成果
　　①第９回・１０回講座の実施状況
　　②児童・生徒の成長の様子

２　取組を通じて見えた課題

３　令和６年度（2024年度）の実施計画

○令和５年度の活動状況

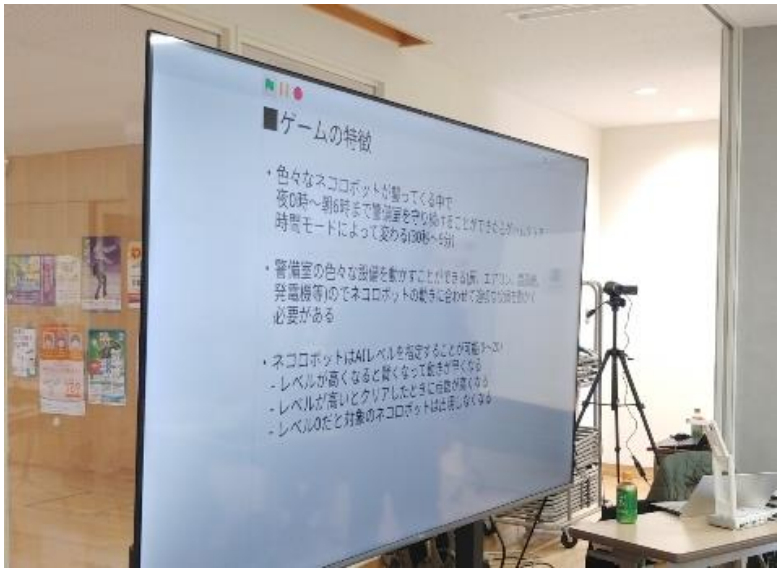
回	日時	場所	内容
1	７月２９日（土） 午後1時半から3時半まで	いずみの森義務教育学校 （地域コミュニティスペース）	・開講式 ・プログラミング学習
2	８月５日（土） 午前１０時から正午まで	いずみの森義務教育学校 （地域コミュニティスペース）	・プログラミング学習
3	９月２日（土） 午前１０時から正午まで	いずみの森義務教育学校 （図書室）	・プログラミング学習
4	９月２３日（土） 午前１０時から正午まで	東京工科大学 八王子キャンパス （片柳研究所棟 KE201教室）	・プログラミング学習
5	１０月１４日（土） 午前１０時から正午まで	いずみの森義務教育学校 （地域コミュニティスペース）	・プログラミング学習
6	１０月２１日（土） 午前１０時から正午まで	東京工科大学 八王子キャンパス （片柳研究所棟 KE201教室）	・コミュニケーションスキル学習
7	１１月１１日（土） 午前１０時から正午まで	東京工科大学 八王子キャンパス （研究所棟 A706教室）	・プログラミング学習 ・コミュニケーションスキル学習
8	１１月２５日（土） 午前１０時から正午まで	東京工科大学 八王子キャンパス （片柳研究所棟 KE304教室）	・プログラミング学習
9	１２月 ９日（土） 午前１０時から正午まで	いずみの森義務教育学校 （地域コミュニティスペース）	・プログラミング学習
１０	１２月１６日（土） 午前１０時から正午まで	いずみの森義務教育学校 （地域コミュニティスペース）	・プログラミング学習 ・コミュニケーションスキル学習 ・閉講式

第１回～第４回までの活動は第１回運営指導会議にて、また第５回～第６回までの活動は第２回運営指導会議にて報告済。本日は第９回～１０回の活動状況ほか総括的な報告をします

１　令和５年度（2023年度）の取組の成果

①第９回・１０回講座の実施状況

作品（ゲーム）の発表



児童生徒７名が第８回講座までに自ら作成した企画書に基づきゲームを制作。最終回にあたる第10回講座でゲームを発表した。講座初期に比べ、児童・生徒に傾聴姿勢の向上が見られた。

１　令和５年度（2023年度）の取組の成果

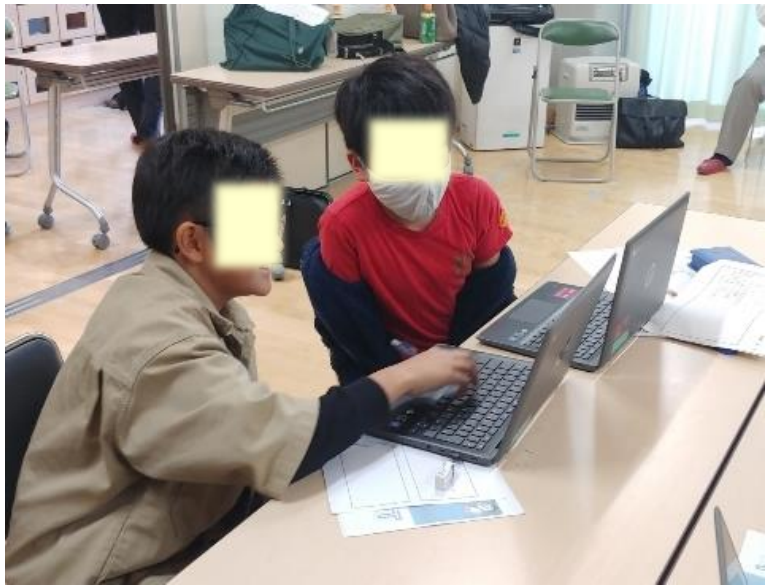
①第９回・１０回講座の実施状況

コミュニケーション・スキル学習

自らの手形を描いた紙皿を背中に貼り、互いに作品の感想やメッセージを書き添えた。
児童・生徒の提案により、大学の先生方やアシスタントの大学生にも感謝のメッセージを書き添えた。

１　令和５年度（2023年度）の取組の成果
①第９回・１０回講座の実施状況

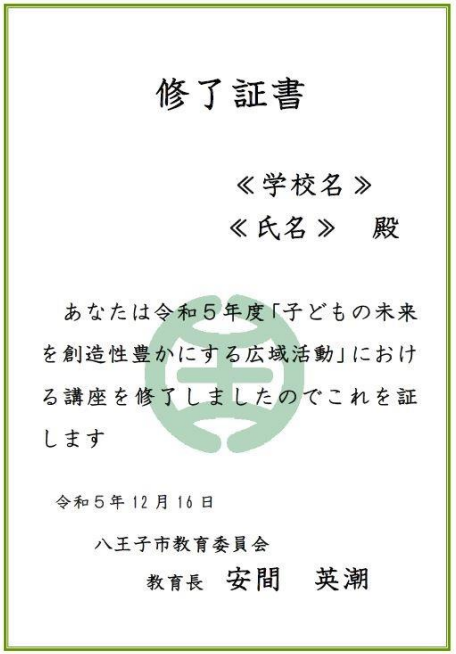
休憩時間の様子



講座の実施回を追うごとに児童・生徒同士のコミュニケーション、講師や地域の大人とのコミュニケーションが増えた。

１　令和５年度（2023年度）の取組の成果
①第９回・１０回講座の実施状況

修了式



修了証書

≪学校名≫
≪氏名≫　殿

あなたは令和５年度「子どもの未来を創造性豊かにする広域活動」における講座を修了しましたのでこれを証します

令和５年 12 月 16 日

八王子市教育委員会
教育長　安間　英潮

児童生徒７名に対し、修了証を授与するとともに、大学の先生方やコミュニケーション学習に関わった地域の大人たちからメッセージが送られた。講座開講時・講座実施初期に比べ、児童生徒たちに傾聴姿勢の向上が見られた。

1　令和５年度（2023年度）の取組の成果
②児童・生徒の成長の様子

【参加児童Ａについて】
　自らＯＳを制作するなどプログラミングの技能は非常に高く、他の受講者と比べても群を抜いている半面、コミュニケーションに大きな課題を抱えている。周囲とうまく関わることができず、不登校になった。かつてプログラミング教室に通っていたものの、環境に馴染むことができずに短期間で退会している。

技能や意欲の高まり

　東京工科大学の先生方からの専門的な指導により、プログラミングの技能が向上した。また、ライオンズクエストにより、他者と関わる場面も増えた。写真は、先生の質問に対して挙手をして発言している場面。様々な技能や意欲に高まりが見られた。

多様な学習の場や居場所づくり

　全10回の活動のうち、自らの意思で9回に参加。学校に通う、通わないに関わらず、人や社会とつながり、自分が誰かに認められた存在であると実感できる経験をし、居場所をもつことができた。本事業がそのような役割の一部を担うことができた。

【児童Ａの保護者の感想】
今回の趣旨であるプログラミングとコミュニケーションという２本立ての学習は、本人にとって興味のあることと苦手なことの組み合わせとなりまして、学習を進める上で非常に貴重な機会となりました。不登校が続いている中で小集団での学習参加は、始まるまでは不安を感じていましたが、教師の方や関係者の方々の細やかなサポートにより、毎回、楽しく学ぶことができ、最後まで通い続けることができました。
拙いながらも積極的にコミュニケーションを図る姿は今まで見受けられなかった新たな一面でした。

1　令和５年度（2023年度）の取組の成果

②児童・生徒の成長の様子

〇児童Bについて（在籍校教員の感想より）

・友だちに自分から積極的に関わることが増え、関係を築いている。
・困ったことがあると、担任に相談に行くことが増えた。
・自分が作ったゲームを友だちに見せながら、楽しそうに会話している様子が見られた。
・苦手とする運動についても、粘り強く取り組む姿が見られるようになった。
・掃除の時間も、時間いっぱい取り組むようになった。

〇児童Bについて（保護者の感想より）

　学校ではなかなか評価されにくいプログラミングという分野での活動を評価していただく機会に大変感謝しております。
　多様性が求められる時代に個性を伸ばしていく取組はとても大切で、大学の講師や学生などから指導を受けることにより、大学という場所を知り身近に感じる事ができたと思います。

２　取組を通じて見えた課題

〇特異な才能を有するとまでは言い切れない児童・生徒が一部参加していた

⇒　課題1　募集方法の工夫の必要性

〇受講者の関心がスクラッチを使用したゲーム作りに集中していた

⇒　課題2　受講者の興味・関心や発想を広げる取組の必要性

〇受講者が同じ内容を一律の進度で学習する場面が多かった

⇒　課題3　「個別最適な学び」を実現する取組の必要性

3　令和６年度（2024年度）の実施計画

時期	活動内容
●募集期 （4月～6月） 	○募集人数　10名程度 ○募集方法 ①市立小・中・義務教育学校長に向け事業概要を説明し、プログラミング領域及びコンピューターグラフィック（美術）領域において特異な才能を有する（有する可能性のある）児童・生徒を推薦していただく。 ②令和5年度の受講者及び<u>※東京工科大学近隣の小・中学校</u>を対象に募集をかける。 （小学校）：片倉台小・由井第二小・高嶺小・中山小・由木西小・七国小・みなみ野君田小・みなみ野小中 （中学校）：由井中・中山中・七国中・みなみ野小中
●活動前期 （7月～8月） 	○第1回 ・東京工科大学の先生方に、プログラミング領域及びコンピューターグラフィック領域において、どのような研究が行われているかを幅広く紹介してもらい、受講者が主体的に取り組むきっかけづくりを行うとともに、取り組みたい内容についての発想を広げる。 ・ライオンズクエストを通して、コミュニケーションスキル等を磨き、受講者と東京工科大学の先生やアシスタントの学生、その他関係者との人間関係づくりを行う。 ○第2回～第3回 ・東京工科大学の先生やアシスタントの学生の指導・助言を受け、企画書を作成する。
●活動中期 （8月～11月） 	○第4回～第10回 ・東京工科大学の先生やATの学生の指導・助言を受け、受講者各自が企画書の内容を更新し、成果物を作成する。 ・ライオンズクエストでコミュニケーションスキル等を発展的にを身に付ける。
●活動後期 （12月） 	○第11回～第12回 ・成果発表会を行い、各自が作成した成果物について発表する。 ・1年間の学習を振り返りを行う。

３　令和６年度（2024年度）の実施計画

令和５年度（2023年度）の取組を踏まえての主な変更・修正点

・東京工科大学の協力を得て、プログラミング領域に加え、コンピューターグラフィック（美術）領域の講座を新たに開設する。

・令和５年度（2024年度）に参加した生徒のうち、希望する者の継続参加を認めるとともに、新規に参加する児童生徒について、応募方式から学校からの推薦方式に変更する。（想定定員に満たない場合は応募を実施する）。

・コミュニケーション学習を活動前期に前倒しし、児童生徒と大学の先生やアシスタントの学生、その他地域の大人たちとの関係構築を図る。

・児童生徒が自ら作成する成果物の企画書作成について活動中期に前倒しし、講師・アシスタントが把握することで、児童生徒の個別最適な学びをより支援できる内容とする。